



「みんなの健康アンケート」結果グリーンピース・ジャパンまとめ

### 実施主体

国際環境 NGO グリーンピース・ジャパンが呼びかけ、事務局となり、「福島の子どもたちを守る法律家ネットワーク (SAFLAN)」、「子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク」の連名を得て実施した。

### 調査目的

東電福島原発事故被災者の健康、くらしを守るうえで必要と思われる制度について、福島に住む方を中心にご意見を伺い、ニーズを把握し、現在国会で行われている被災者保護の制度設計に反映させる。

### 調査方法

健康、くらしを守るうえで必要と思われる制度について、10 項目から選択し、最も必要と思われるものに二重丸をつけるアンケート用紙を 2 月 24 日、福島民報折り込みチラシとして約 25 万世帯に配布。また、グリーンピースのサイト上でも実施した。また、裏面には、チェルノブイリ原発事故周辺国であるウクライナの健康を守る制度の概要を示した（汚染地域を 4 区域に分けての被ばく低減の支援策など）

### 調査結果

封書での有効回答が 904（906 通あった返信のうち、制度についての選択がなく、有効回答とならなかったものが 2 通）（約 65%）で、FAX での有効回答 217（221 通返信のうち、裏面送信など有効回答とならなかったものが 4 通）（約 16%）で、ネットからの参加が 261 人（約 19%）の合計 1382 人からの有効回答を得た。（3 月 12 日午前 11 時時点）

## 1. 回答者について

### ・住んでいるところ

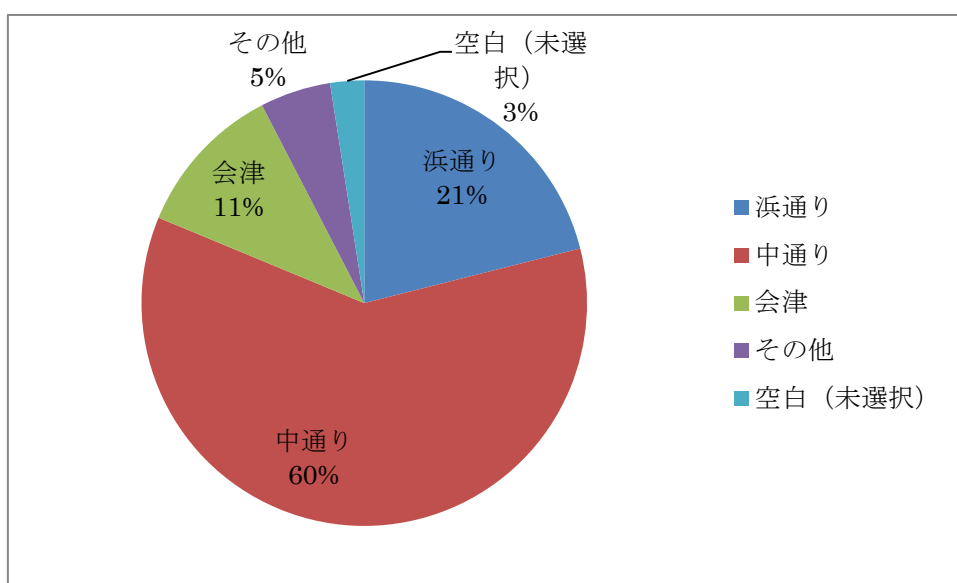
中通り 832 人(約 60%)

浜通り 291 人(約 21%)

会津 154 人(約 11%)

その他 71 人(約 5%)

空白(未選択) 34 人(約 2%)

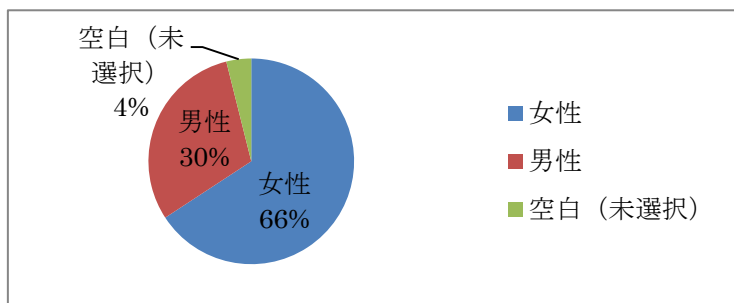


### ・性別

女性 909 人(約 66%)

男性 419 人(約 30%)

不明(未選択) 54 人(約 4%)

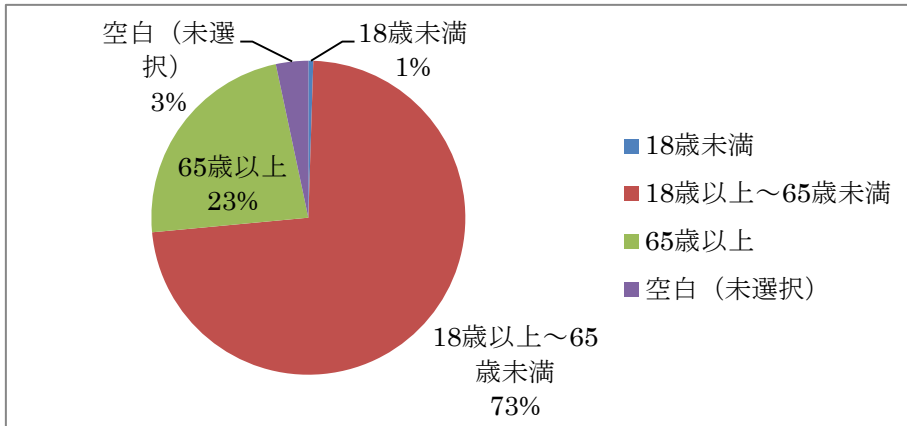


・年齢

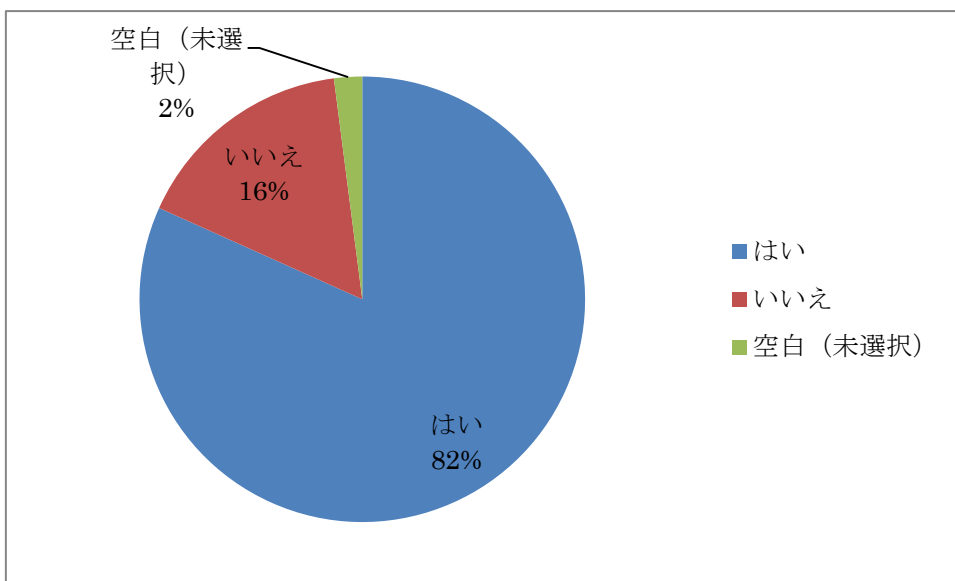
18歳以上から65歳未満 1009人（約73%）

65歳以上 320人（約23%）

18歳未満 7人（約0.5%）



お子さんの有無

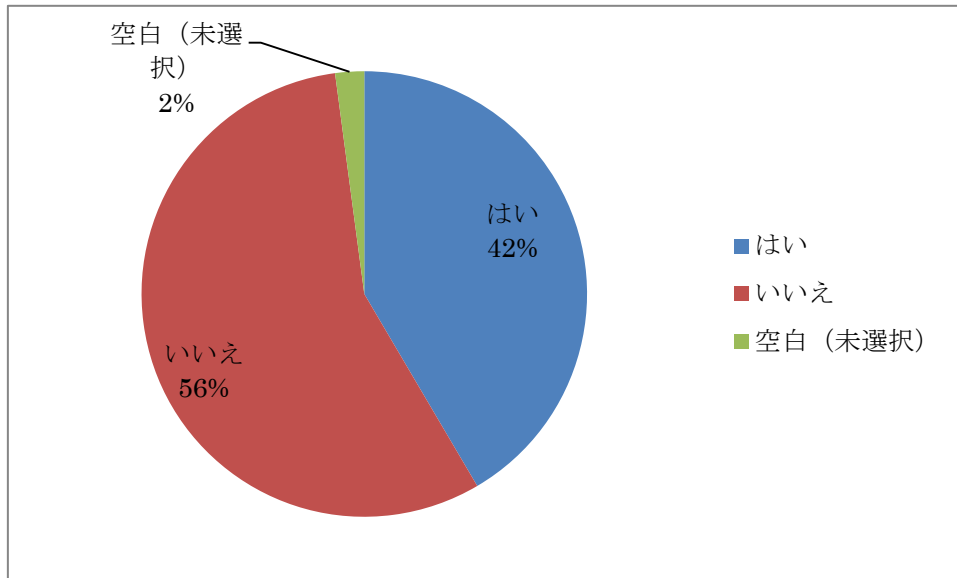


有 1122人（約82%）

無 223人（約16%）

不明（未選択） 28人（約2%）

## 避難の経験の有無



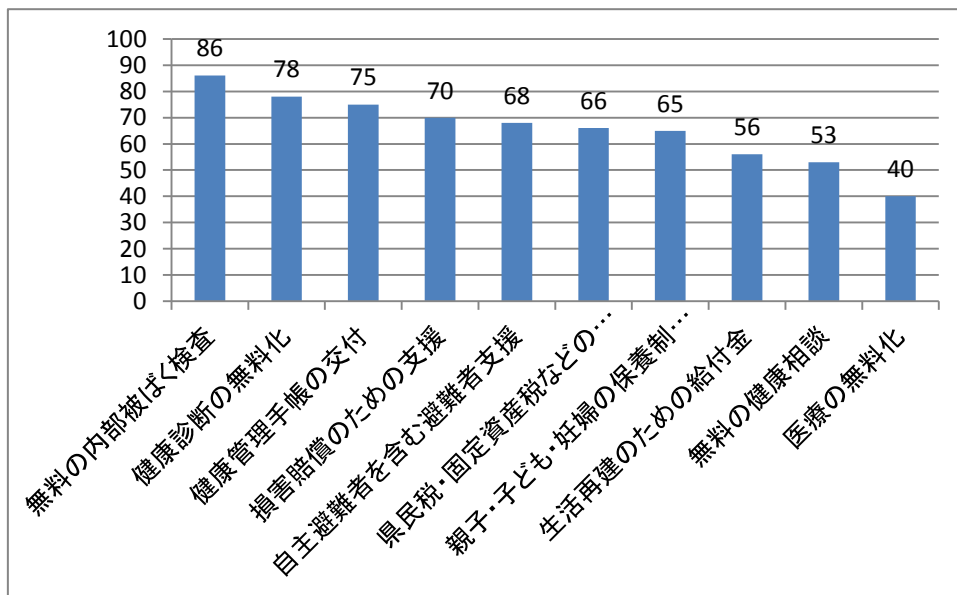
有 574 人 (約 42%)

無 779 人 (約 56%)

不明 (未選択) 29 人 (約 2%)

## 2. 健康や暮らしを守るうえで、必要だと思われる制度についての回答結果

(複数回答方式。目盛、数値は有効回答数における各項目の%)



無料の内部被ばく検査	1195 人
健康診断の無料化	1082 人
健康管理手帳の交付	1033 人
損害賠償のための支援	963 人
自主避難者を含む避難者支援	936 人
県民税・固定資産税などの免税	919 人
親子・子ども・妊婦の保養制度（定期的なものを含む）	897 人
生活再建のための給付金	768 人
無料の健康相談	739 人
医療の無料化	549 人

全体の 86%の方が「無料の内部被ばく検査」を必要としている。検査実施の遅さを指摘する声も多い。健康診断の無料化については、定期的に、継続して、という声があがっている。また、健康診断や健康管理手帳の交付も 7 割が必要としており、健康被害の予防を希望する声が多い。

自主避難者を含む避難者支援では、避難したくとも経済的にできない、家族などの理解が得られない、などの状況を述べる声が多く、仕事や住宅への支援を求めている。また、家族などの理解を得るために「避難の権利」を求める声もあった。

県民税・固定資産税などの減税については、固定資産の資産価値が事故により下がる中での課税へ怒りの声が寄せられている。

親子・子供・妊婦の保養に関しては、避難したくとも、経済的理由・周囲の理解が得られないことなどからできない方が多く、そうした方が強く望んでいる。“自主的”なものでなく、学校全体での“疎開”や職場で奨励されるような形でないと子どもが避難したがる、仕事は休めないという声があった。また、妊娠可能な未婚女性の保護を訴える声もあった。

医療の無料化については、自由記入欄への書き込みも多く、「当然」として放射能関連疾病以外も放射能との因果関係を証明するのは不可能であろうことから、すべての疾病について無料化すべきという声と、放射能関連の疾病のみ無料化すればよいと意見とがあった。また、医療の無料化を選択しなかった方に、予防こそが大事だからという主旨を書き込む方も。

□以下、自由記入欄より、それぞれの制度に関する意見の抜粋（誤字は訂正した）

#### －無料の内部被ばく検査、健康診断、医療について

- 「一刻も早く、子どもたちの被曝検査をしてほしい。そして、結果を包み隠さず教えてほしい。その上で、今後どうしたらいいのかを明確に」（中通り／女性）
- 「医療の無料化は無理だと思うが、定期的な健康診断を長い期間行ってほしい」（会津／女性）
- 「内部被爆に対する中央の感覚が低い。毎日の食品の購入に小さい子を持つ親たちが苦勞しているか伝わらない。地域の中で愚痴を言っているもただ地域内で循環するだけ。広める方法を模索している。地域の長たちは地域復興を謳うだけで安全、健康については二の次である。医師たちでさえそうである。郡山市の疎開裁判は負けた。司法も頼りにならない。成長期の子どもたちを保養させるシステムが是非欲しい」（中通り／女性）
- 「福島県独自の制度、18歳までの医療の無料化が秋から行われるそうだが、福島県内での受診に限って無料だという。これはわれわれ区域外避難者を「早く県内に戻したい」ということなんだと思うが、県内在住者にとっても、県外に旅行中に事故や病気になって県外で受診した場合にだって医療費は自費負担ということになる。なぜ県内での受診に限定するのか、はなはだ疑問である」（山形県／女性）
- 「子供・妊婦だけでなく未婚の女性（20代30代、40代でも健康に不安をもっている福島県民すべての人の医療の無料化をお願いします」（中通り／女性）
- 「上記にある国の制度はあたりまえの事で今後の健康には全ての県民に不安がつきまとい健康被害は必ず出るものと思う。その時因果関係はないとか解らないなどの見解が一番困る事でいまからの対策が望まれる」（中通り／男性）
- 「原発事故による健康被害を一生、国に補償させる制度。特に、18歳未満にはこういう制度を設けるべき」（中通り／女性）
- 「子どもの健康について、一つは予防の意味で健康診断が定期的に行われること、一つは病気が発見または発病した時の補償・対策を望みます。健康調査については、原発事故の放射能汚染の影響を認識している医師によって行ってほしいです」（中通り／女性）
- 「今すぐ必要なのは福島は勿論ですが放射性物質が飛散した地域住民の甲状腺のエコー検査や血液検査だと思います。中でも福島は一年経っても一部の人しか検査しか終わってなく、もっと窓口を増やして検査のスピードを早める必要があると思います。何故なら今の現状を知らなければこれからの変化との比較が難しくなるからです」（北海道／女性）
- 「H23.3.11現在に18歳以下であった者を対象にしていきたい」（中通り／女性）

- 「医療の無料化を選んだのは子供が将来に不安を持たずに過ごせるようにです。私達は何とでもなりますし、何とでもしていかなければいけません。それは私達が電力として原子力を安易に使っていたからで、子供たちには何の責任もありません。しかし、体内の影響が出てくるのは20年30年後。私たち親はもう子供のそばにいけないかかれません。そんなときに子供に残してあげられるのは安心と安全です。今は親が耐えて選択していかなければいけないと思い、未だ自主避難で生活しております。早くどこでもいいので家族で安心して過ごしたいのが願いです」(浜通り／女性)

### 一健康管理手帳の交付

健康管理手帳の交付については、広島・長崎の「被ばく手帳」を連想されることから、交付によっておこりうる差別に対する懸念の声もあった。

- 「賠償金も必要だと思うが、それよりもホールボディカウンターを各市町村の総合病院へ設置して、定期的に検査をして欲しい。それに伴い、一生涯検査料は無料で」(中通り／女性)
- 「健康管理手帳の交付は絶対必要。年数の経過と共に、政府、医療関係者、裁判所、官僚等が使用する常套文句『放射能』との因果関係は認められない。という言葉は絶対に使わせないという法律を、切に望む」(中通り／女性)
- 「国のスピーディの予測データを公表せず無用の被曝を負ってしまった我々南相馬市、飯館市の人々、今後間違いなく出るであろう放射線による健康被害、特に子供たち、今後国、東電はどう責任を取ってくれるのだろうか？5年、10年後、その後もどれだけ苦しみ、悲しむ人々が事実として表れてくるのだろうかその時になって、今の生き方2011年、2012年の暮らし方をどれほど後悔するのだろうか...これほどの罪を犯した政府はどれ程、我々に責任を感じていますか？被曝者手帳を発行して下さい。生涯、我々を見守る責任があります」(浜通り／男性)

### 一避難支援

続いて多いのは住宅・雇用・教育機会などの避難支援。移住支援を望む声、家族離散時の面会支援を望む声も。

- 「郡山市に住んでいますが、2月末現在、自宅庭が1.3マイクロシーベルトあり、公式発表の0.6の2倍近くあります。そのため、主人を残し、2歳の子供と実家に避難しております。定期的に、郡山の自宅に戻っていますが、新築の自宅のローンが解決し、主人の転職先が見つければ、家族そろって移住したいと思っています。政府は、自主避難者の一時的な補償ではなく、移住を希望する場合は、そのサポートもしてもらいたいと思います。(ローンの減額など)」(中通り／女性)
- 「子供が2人いるので移住したいのですが、主人が納得してくれず移住できません。

移住先で就職先があれば別なのですが・・・」(浜通り／女性)

- 「私は福島市から山形市に母子で自主避難しています。一番は息子の健康面、二番に経済的な面が心配です。いつまで続くかわからない生活。精神的にボロボロです。助けてください。助けてください。お願いします」(中通り／女性)
- 「福島各地に残っているお父さんと避難先の子どもたちを結ぶお父さんバス。避難家庭の経済をパパの交通費が圧迫しています。すでに山形と福島市を結ぶボランティアバスはあるようですが、多くの避難者がいる東京ではまだです。月に一回でも無料で往復できたら、子どもたちが一回パパと遊べます。子どもたちは家とお友だちとお父さん、学校から無理やり引き離されました。少しでも以前の、普通の生活に近づけてやりたいです。マイクロバスでもバンでも、小さな一歩からの支援が切実に欲しいです」(東京都／女性)
- 「中通りは、放射線管理区域以上の汚染にもかかわらず、今も多くの子供達が生活しています。国が責任を持って避難の権利を認めて欲しいです」(中通り／女性)
- 「避難者支援として、家族が離れ離れにくらし、精神的にも金銭的にも負担が重いです。できれば、避難場所から福島に戻るための電車やバスなどの公共交通機関が割引になったり、回数券が支給されるなど、もしくは、ガソリン券が支給されるような交通費の負担軽減制度があれば、家族も会いやすくなり、負担軽減になるとおもいます」(中通り／女性)

#### 一 県民税・固定資産税

- 「下がってしまった地価に対し、福島県民は固定資産税などの免税が無いと、なんだか不公平に感じます」(中通り／女性)
- 「放射能で汚染されてしまった土地に住まわせられているのに税を取るの、おかしい」(中通り／女性)
- 「汚染された土地や家屋にこれまでと同様の税金を当たり前課税するのは納得できない。もはや”資産”ではないから」(中通り／女性)
- 「今、売ろうとしても、放射線量の高い地区に住んでいるので誰も買う人がいません！その土地・家に何の価値があるのですか？なんでそれに税金をはらわなくては、いけないんでしょう！！」(中通り／女性)

#### 一 親子・子ども・妊婦の保養制度

- 「産前産後休暇、育児休暇があるように、小さい子どもがいる父母の保養休暇制度を早急に設ける必要があります。また幼稚園、保育園、小、中学校全学年の1泊～1週間ぐらいの保養旅行、保養研修旅行の制度を1日も早く作ってください」(中通り／女性)
- 「長期的な(3ヶ月～半年)休暇を取り、家族全員で、短期移住する制度(強制的



に) 任意だと絶対取れません」(中通り/女性)

- 小学生の子ども 2 人と母子避難中です。放射性物質を少しでも排出させるために、保養させる必要があるのではないですか?実際、1 ヶ月程度の保養生活で排出されるとチェルノブイリで立証されています。汚染のない海外へ政府の責任として保養所など作って欲しいです。他にもチェルノブイリの医療データを参考にして被曝の医療体制を整えてください。日本の医師は内部被曝について無知すぎます。外部被曝ではなく、内部被曝の研究をして欲しいです」(群馬県/女性)
- 「週末避難を続けています。郡山では、庭で遊べない生活はもう限界です。秋までは、毎週週末避難していましたが、冬は毎週はいけません。金銭的にももう限界です」(中通り/女性)
- 「不安を抱えたままの一年、避難も考えたが、家族の意見の相違、仕事、経済的理由により断念。この地で出来る限りの工夫をして、自分の中の不安を押し殺しています。子供は、一時的(夏休みなど利用し)集団疎開で少しでも低減化に取り組んでほしいです」(中通り/女性)
- 「チェルノブイリの原発事故と同じように4つの区域に分けたり、希望者には保養施設での健康増進プログラムを行ってほしいと思います。現在福島市の御山地区に住んでいますが、3男(小3)は大変疲れやすく、目の下のクマがとれにくかったりしています。避難といっても、中2、小6の兄もいて、制度が整っていて、国や県の指示がないと、移住しにくい状況です」(中通り)
- 「現在南相馬市で生活中ですが、大人も年に2~3週間、他の地域へ逃げだしたくなる気持ちです。国や健保の施設が安く利用できたら...かな... ストレスが大人(退職組)にも広がって来ている様に思います」(浜通り/女性)

### 3. 最も必要と思われる制度についての回答

最も必要と思われる制度に一つ二重丸をつけるという問いを設定した。

項目	左項目を選んだ人数
健康管理手帳の交付	205人
無料の内部被ばく検査	179人
医療の無料化	139人
自主避難者を含む避難者支援	123人
県民税・固定資産税などの免税	95人
親子・子ども・妊婦の保養制度(定期的なものを含む)	89人
健康診断の無料化	87人
損害賠償のための支援	73人
生活再建のための給付金	55人

無料の健康相談	7人
空白（未選択／複数回答）	330人
合計	1382

（未選択／複数回答）が最も多いが、封書や FAX の回答で、「最も必要と思われる制度を一つ」という問いに対し、複数もしくは全項目を選んだ方が、100人以上いらした。結果的に、最も必要と思われる制度は「健康管理手帳の交付」とした方が最も多かった。

#### 4. 自由記入欄への書き込みについて及び意見の抜粋

自由記入欄への書き込んでくださったのは 1081 人（78%）。

制度への注文のほか、政府のこれまでの対応への批判、放射能への不安の声も多い。とくに「国会議員の方に福島に住んでいただきたい」という声が多く、「実態を知ってほしい」と考えている人が多いことがわかる。

以下、主な意見（抜粋）

##### ー測定について

自宅の測定、田・畑の測定、収穫物の測定を望む声が多い。

- 「個別に一度公的測定を実施してほしい」（中通り／男性）
- 「私は農民です。田・畑の細かい測定を（福島県だけではなく、近県も）してほしいです」（中通り／女性）
- 「家庭菜園（自家栽培）野菜等の放射能モニタリング検査。もっと居住地の身近な所で無料で受けられる場を多く設置してもらいたい」（浜通り／男性）
- 「各地で新たなホットスポットが見つかる中、行政はいまだ各家の線量を計測に来ません。最低限の情報も把握せず県民一人一人の健康を管理できているのでしょうか」（中通り／男性）
- 「家庭で作った、農作物の線量測定機を農協、支所等に配置し、いつでも無料で測定できるようになると良い。食物に対する安心を得たい」（浜通り／女性）
- 「小学校がある所に、食品を検査する（放射線）機械を設置し、農家だけでなく、家庭菜園で作られた食品を検査できるようにしてほしい」（中通り／男性）
- 「すべての食物に関しては、放射能の数値を明記して欲しい。（特に野菜、肉類、魚類）JA 直売所の検査もランダムでしか行われていないので、怖くて購入できない。各戸に、ベクレルを測れる測定器を支給して欲しい」（中通り／女性）
- 「農業従事者以外の人々が作った果樹・野菜の放射性物質の検査は現在無料~2012

3/31 までだが、次年度も継続が必要です。制度（条例可）化が必要と思います」（中通り／女性）

- 「くらしを守る観点から、畑などの土壌検査を身近な場所で受けられる制度を望みます」（会津／男性）
- 「私は子育て中です。子どもは小6・小3・年少・六ヶ月母乳で育てています。母乳の放射能検査を強く希望します。以前、来年度より実施という記事を見ましたが、来年では意味がないんです。今現在、母乳で育てているお母さんが重要なんです。すぐにでも検査の実施を国会に伝えてください。検査対象なんて限られているはずですよ」（中通り／女性）

### －除染について

自宅周辺の早急な除染を望む声が多い一方で、除染の効果を疑問視する声、除染よりも、避難・保養を優先すべきという声も多い。

- 「早く自宅除染をしたい。費用を何とかして欲しい」（中通り／女性）
- 「最優先されなければならないのはこれ以上内部被曝をしないこと。だから避難や保養が最優先。そして同時進行で現在の健康状態の把握、その後の経過を定期的に見ていくこと。住み続けての除染が一番意味がないと感じています。住める状態にしたいという気持ちはわかるけど子供たちはどんどん被曝リスクを負っています。福島県民に危険性が周知されていないこともかなり深刻な問題です」（福島市から札幌へ避難した女性）
- 「個別除染しても一時的な気休めになりかねない」（中通り／男性）
- 「除染をしても、規模が広すぎるし、水の除染でその場は線量が下がっても、風の強い福島県にとっては花粉やチリなどでまた拡がる」（中通り／女性）
- 「中道りは、除染に膨大なお金と労力と時間を費やすより奥羽山脈よりの線量の低い土地に新しい街を作ってしまったほうが、合理的なのではないかと思う。除染も最後まで完全にできる可能性は低いと思っている。物理的、資金的に限界になったとき住民が無理とわかって、諦めだしたころ行政は国も県も除染を途中で放り出すのではないかと疑っている。だから、新しい街を作ったほうが住民の健康のためにも、県の復興のためにも確実な選択だと思う。福島県を残したいなら。私は家族の生活のきりのいいところで、住民の命と財産を守らないこの県から出て行きたいと、準備中です」（中通り／女性）
- 「放射能の除染にかかった費用など、本来は不必要な出費が嵩んでいる。いちいち領収書をとっておいて費用を請求するのではなく、地域に除染費用を支給していただきたい」（中通り／女性）
- 「福島市在住です。市内では線量の高いところから除染を実施しているようですが市の繁華街や市中心部に位置する信夫山の除染の知らせはなく未実施と思われ、除

染の進捗状況が遅すぎです。やるならもっと本腰を入れてやらないと福島市民は被爆するばかりです。この状況を必ずなんとかしてほしい。また、町内会で高圧洗浄による除染除染実験を行いました。公園のベンチとアスファルトを洗浄しましたが、洗浄前後で線量がほとんど変わらず。次年度では本格的に作業をする予定ですが、公園や住宅の表土除去による除染はできますが、高圧洗浄による除染の効果がほとんど無い以上やっても無駄に終わる可能性があり、ちょっと自治体や県にもその辺を考慮いただき作業の方法の変更などをしていただきたい」（中通り／男性）

- 「除染がすすんでいない。一軒あたりいくらか除染の給付金を出して自分で除染をやるか、委託会社を増やして除染をすすめるなどしてほしい。委託会社が増えれば雇用にもつながり、復興になると思う」（中通り／女性）
- 「まずは除染ですが中間も含めて最終処分場の一刻も早い建設です。法的にも決めて頂き3年後など言わず早くしてほしい。このままでは10年たっても変わらないです。この状況の中での生活は当面は県民税、固定資産税その他の税の免税を望みます」（中通り／男性）
- 「除染と云っても地方の除染は切りがないと思います。田畑山林田であれば田と田の中の土手まで除染しないといけない草の根まで剥がすと土手が崩れる田の中の土を取ると肥やし分がなくなって米がとれなくなります。もし作っても風評被害でうれないでしょう。除染は無駄です。若い人は帰ってこないと思います。前向きに別の方にお金を使って下さい」（浜通り／女性）
- 「郡山一帯の放射線量を測定し高い地区の除染をしてほしい。私には郡山にいる就学前の孫が心配。と言うのは、庭の線量3.6マイクロシーベルトなので、その処理を早く講じてほしい。時間、子供の成長は待ってられない」（中通り／女性）
- 「毎日を不安の中で生活しているので、一日も早く除染の方を進めてもらいたい子どもたちを安心して外で遊ばせてあげたい外遊びのわからない子どもたちが増えてしまいそうで、怖いです」（中通り／女性）
- 「自宅の除染が大変です。枯葉など取っても、また別の枯葉→針葉樹が飛んできます（風強い所なので）定期的に手伝う除染ボランティア隊などが、作られるといいのではと思います。東電の方や政府関係者も交替で除染を経験してみるのも、一考だと思います。線量計も、少し安くなったら皆に配って欲しいです。土の中のセシウムを吸収できる物など、開発されたら、無料で率先して、福島の人に配って欲しい」（中通り／女性）
- 「除染の方法（水洗い）私の家は土地が低い所にあるので他家を除染した放射能が全部我が家に流れて来るようで、耐えられません。他の方法はないのでしょうか？まわりの田畑からも放射能が来ているような気がして生きた心地がしない」（中通り／女性）

## 一 避難について

避難したいが避難できない苦悩を記入する方が多い。仕事など経済的理由をあげ、だからこそ、疎開や保養を求める、など。「疲れた」と記入する方も。

- 「とにかく、早く子供だけでもいいので、避難疎開命令を出してほしい。危険だと分かっていながら、生活しなければいけない苦痛は、もうたくさんです。命令してくれたら、安全だと信用している人も納得してくれるはず。地域で温度差があるので、原発の話はタブーみたいな雰囲気があります」(中通り／女性)
- 「福島市から米沢市へ避難、毎日福島市へ通勤しています。1mSv が法に基づく限度のはず。まずは、『今の状況がとてつもなくおかしい』ことを認識すべきです。まずは『避難を選ぶ権利』『さまざまな情報が得られる権利』を。それがなければ、医療や健康診断が無料になっても（それは確かに必要なことではありますが）『ほどこし』になってしまうと思います」(福島市から米沢へ避難の女性)
- 「中学・高校生は学業や友人などのしがらみで避難したがりません。学校単位での疎開が是非とも必要です」(中通り／女性)
- 「正直、色々と考えすぎて疲れしました。でも子供を守るためには、そんなこと言ってもらえないし避難できてようができてなかりょうが子を思う気持ちに差があるわけでもありません。避難していない我が家では、週末だけでもと県外等に出掛けています。できることなら、週末だけでも利用可能な 無料の（又は低料金の）施設など、各地にあればな…と願っています。この一年、食品の取り寄せや、各地への宿泊費など貯金を食い潰してる状況です」(中通り／女性)
- 「福島市でも線量の高い南向台に住んでいます。家の中は0.9あり、2歳の娘が心配で自主的に山形に避難していますが、主人は福島に残って仕事をしなくては生活できないために、2重生活をしています。しかし、金銭的に苦しく、避難先より、福島の自宅に多くいる毎日です。お金が無くては避難はできません…。福島には私と同じ気持ちの方が大勢います。とにかく、避難区域だけでなく、福島県に賠償を早くして欲しい。そして長期に渡る健康調査、賠償を心から望みます。放射能から子供を守る為に食べもの、水、遊び、自分なりに注意していますが、いつまで続くのか…もうみんな疲れています…(+\_) まだ毎日被爆しながら生活をしている福島のことを忘れないで下さい」(中通り／女性)
- 「二重生活している知人達の貯金は底をついてきました。また、お金がなくなり避難生活終わらせた人もいます。終わりの見えない避難生活に少ない貯金を使うことはできません。将来子供達を大学にもあげなくてはならない。今の生活だっけりぎり。住宅ローンだっけりまだまだ残ってる。お金のない人は避難なんてできない」(中通り／女性)
- 「福島原発が、いまだ不安定な中、また、爆発や臨界がおきて避難しなければならなくなったらどうしようと不安でなりません。私の住んでいる所も、けっこう放射

能が高いです。3月の水素爆発の際、避難するか悩みましたが、主人や家族の仕事などの事情があつてあきらめました。自主避難をあの時出来た人は、経済的に余裕のある人が多かったと思うのですが、逃げたくても出来ない人の支援をもっとお願いしたいです」(中通り／女性)

- 「福島市渡利在住です。除染期間中の短期避難への支援がほしいです。市、県、国は要望を聞いてくれません。特に、市長は避難など必要ないと考えております。市民運動の支援でようやく一時保養が出来ている状況ですが、除染期間とのマッチングがうまくできていません。除染する地域がある程度把握できるようになってきましたので、その地区に住む住民、特に子どもたちの避難をさせてあげてほしいです」(中通り／女性)
- 「避難はしたいが、仕事を辞めなければならなくなり、次に仕事につけるか保障がない。新築したばかりでローンも残っている。子供も小さいのでこの先いつ病気が発生するか分からないので不安」(中通り／男性)
- 「福島の地に住み続けるために！『被ばく線量を少なくするため、木造住宅に住む人をコンクリート造りの建物へ』福島県外に避難した方には、住宅手当がありますが。県内在中の方が線量の少ない県内や住居に移動することができません。コンクリート造りの場合、0.1uSv/h以下で生活できるのです。県営・市営・教職員住宅など解放してほしいものです」(中通り／男性)
- 「避難したくても生活ができなくなるのがこわくて避難できません。私の周りには多くのそういった方々が多く、不安な中で生活し、様々なストレスを抱えています。避難指示とか強制避難とかが出ておかしくない汚染地区で暮らしていかなければならない不安と恐怖で毎日がつらいです」(中通り／女性)
- 「県南、会津地方が賠償の対象から外された事に納得できません。私は矢吹町に住んでいます。原発事故以来、衣食住全てにおいて、生活が変わってしまいました。いまだに、水はペットボトル入りのものを使っています。自主避難を考え、6歳の長男に話をしましたが、子供は”お父さんが大好きだから、毎日会いたいから行かない。お母さんはお父さんがキライなの？”って泣いてしまい避難をあきらめました。本当にこれから先のことなどを考えると自分自身が壊れてしまいそうです」(中通り／女性)
- 「避難した方は、声をあげられなくて、悩んでいる人がたくさんいます。お願いします。現在、避難中ですが、4月には福島市内に帰ってきます。苦しい、悲しい決断です。私は、福島市南向台に住む主婦です。昨年10月から、小学生の子ども2人と山形への避難を決断し、今も家族バラバラの生活をしていました。しかし、息子が4月から中学生。いろいろ考え悩み、4月から福島に戻ります。しかし、自宅内の放射線量が心配で、市内のマンションを借りて三重生活と、ほんとうに自主避難はたいへんです。自主避難者は、どこへ行っても肩身がせまい思いをしなけれ

ばならない」(中通り／女性)

- 「子供の夏休み、冬休みは関東で過ごしました。自主避難したくても金銭的に無理です。でも自宅にいと子供の被ばくが心配なので、週末はなるべく外出しています。どうか自主避難の支援をお願いしたいです。自宅の中でもかなりの高線量なので除染の支援(金額)もお願いしたいです。どうかどうか『ふくしま』を助けてください。うちの子供は3ヶ月で1.2mSvも被ばくしてしまいました(伊達市 富成地区 主婦)」(中通り／女性)

### —情報について

周辺放射能に関するより細かい情報を求める声と同時に、「安全」という行政広報に対する批判がある。

- 「原発情報(東電の記者会見など)の番組を天気予報のように5分でもいいので毎日番組にして欲しい」(中通り／女性)
- 「現在住んでいるところのBqとSvを知りたいです。その値は健康にどのくらい影響があるのか、それから事故前の線量を知りたいです」(中通り／女性)
- 「安全だと国が言っていた為に、放射能に対する知識不足の多くの市民がこの汚染された地域に残り、多くの人々の健康を阻害するおそれがある中、国はその責任を負わなければならないと感じています」(浜通り／男性)
- 「個人への線量推定の結果通知はすみやかにして欲しい。10月提出したものがいまだにお知らせがない」(会津／女性)
- 「危機感を持って生活している人が最近では肩身の狭い思いをしている。ネット上の限られた場だけでなく、様々な情報を多くの人目にふれる形で発信してほしい。様々な事情で避難は難しく、終わりも見えず苦しい毎日です」(中通り)
- 「保養や避難情報が見やすくまとめてあるケータイサイトがあれば嬉しいです。パソコンを持っていないので」(中通り／女性)
- 「そのつどの状況を”うそ”(言葉きたなくすみません)でなく本当の発表を公表してほしい」(中通り／女性)
- 「市役所に尋ねたいことがあって、何時間も待ったのに、市のHPを見て下さいと簡単に言われてしまう。パソコンを持っていない人にとって情報が入りにくい誰でも必要な情報がわかりやすくできる方法があればいいが、と思います」(浜通り／女性)

### —地域の分断や公平さについて

「自由記入欄」を読むと、避難区域と区域外、自主避難対象区域と区域外、同じ区域でも避難した人、残る人、保養できる人、できない人の間に溝が生まれていることがわかる。県民すべてに公平な賠償を求める声も多い。

- 「福島県は一つとを考えてもらいたい。分断されては困ります」（中通り／女性）
- 「福島県民すべての人に対して今回のことで何らかの被害が発生していることを、もっと重く受け止めてほしい。精神的被害が大きすぎる。そのことをもっと考慮してほしい。賠償額が少なすぎる。避難区域に指定された人だけが配慮されていることが多い。全県民に対して同じように考えてほしい」（中通り／女性）
- 「現在、郡山市から子供 2 人と東京都に避難中です。（略）郡山市は保育園に入りたければ住民票を移す以外の特例はないと言われました。避難してから、郡山市からの案内はひとつもありません。被災証明も出せないと言われました。子供には辛い思いばかりさせてきて、本当に心が痛みます。この先のことが全く見えず、主人と話しをしても、答えは見つかりません。自宅の放射線量が未だ高く、なかなか帰る決心がつきません。それでも住んでいる人達はたくさんいるので、そんなこと絶対に言えません。近所の方達との溝が深すぎて、帰るのがとても怖いです」（中通り／女性）。
- 「被災者格差が生まれ、お互いにかみ合うような雰囲気生まれ暮らしにくい、よって誰もが納得できるような支援制度だと良いと思うので、距離ではなく、きちんと被ばく量を測ってそれに応じた賠償が求められると思う」（中通り／男性）
- 「23 市町村だけに住民賠償は本当にショックでした。自宅のある町は、日常の放射線量も 23 市町村と変わらないくらいです。23 市町村の中には、私のいる町より、被害もほとんどなく、放射線量も 0.1 代というところもあります」（中通り／女性）
- 「二次避難所、借り上げ住宅、仮設住宅とそれぞれお世話になっていますが、仮設住宅は、それぞれの集会場に於いて、自治会を組織し、損害賠償のための支援や生活物資の支援は至れり尽くせりですが、借り上げ住宅には何一つ物資の支援はない不公平さに、捨てられた住民の感がいたします」（浜通り／女性）
- 「私は今、親と私、夫、子、4 人で促進住宅に住んでいます。家いた時は、井戸水でおいしい水を飲んでいました。ここに住んでから水がおいしくなくてお茶も飲めないのを水を買って飲んでいました。仮設にいる人たちは、いつも水がもらえると言っていました。同じ避難者なのに、物資がもらえないのは、不公平だと思います」（中通り／女性）
- 「私は福島県中通りでも県南、矢吹町に住んでいます。原子力損害賠償紛争審査会は中間指針で県内 23 市町村への賠償を東電に要求しました。私の住む 町は線量も隣の町村より高く、原発から西南西 66 k でそれより遠い所も中通県中までの線引きで対象になり、とても納得できません。子供達は楽しみにしていたマラソン大会、課外活動が全く出来ず、悲しい 時を過ごしてきました。地域の周囲ではとなり同志で賠償の有無があり、審査会は何を基準にしたのか、何のための会なのか、対象外にした矢吹町、白河市の住民に説明していただきたいです。不公平です」（中通り／女性）



- 「いわき在住で 35k 程、福島原発から離れています。しっかりした家を建てたので家も大丈夫だった事が逆に一銭もお金ももらえず、大変苦しいです。安い家を建ててての方がくずれて、5k 程 原発に近い方は避難の為に金をもらえているのを横目で見て納得いきません。5k 違いとはあくまで線引きであり、私達も 3/11 以後仕事もできず救援物資も届かず貯金もなくなりました。それでも自営の為（水をくみながら）生活してた時パトカーを見ながら大変精神的苦痛も味わいました。これは、どこに訴えればいいのでしょうか？」（浜通り／男性）
- 「避難もしかたないと思うが、避難できずにのこっている若い親子、年寄のほうも避難した人の分まで、がんばらなければもとの生活にもどれないのだから自分の家で生活して地域を守っている私たちに大きな支援が必要だと思う。＊避難した人は安全なものを食べているが、私たちは不安とたたかいながら食事や生活をしている！」（中通り／女性）
- 「現在生後 2 か月の孫がいますが妊娠中や出産には、大変心配でした。また、これから離乳食などの食材も不安でスーパーには県内産地元産ばかりで、あと、魚介類に対しての不安が大きいです。私は会津ですが、県内を二分するような保障や検査はよくない（特に乳幼児、妊産婦に対する対応）温度差を感ずる。会津だって低い放射線というが、不安心配は同じです」（会津／女性）
- 「内部被ばく検査や保養制度は妊婦や子供のいる世帯限定だったり、免税は避難区域に指定された市町村だけだったり、中通りの住民は今も、平常時より高い放射線量の中で暮らしているのに、原発立地町の住民は義援金などをもらって安全な所に避難していたり不公平な事だらけです。県民全員が不要な被ばくをさせられているのだから、個々の積算線量（居住地とその期間）に応じて賠償金を受けられる制度や、自主避難する際の経費の全額補償を制度化して欲しいです。行政に意見を伝える機会がなかったので、今回このような形で書く事ができてよかったです」（中通り／女性）
- 「会津に住んでおります。福島県内でも会津は比較的被害が少ないとの事で賠償の対象から外されています。現在、代表者が交渉してありますが・・・しかし福島県民というだけで、どれだけ非難をあげているか、わからないのでしょうか。仕事で他県へ行けば福島ナンバーで来るなど言われ、福島ナンバーの変更を強いられ、福島という名を隠さないと仕事ができないのが現状です。これから成長する子供達も福島出身というだけで結婚も断られてしまうのではないかと心配ですし、健康に成長してほしいとただただその事だけ願って毎日生活しています。すべての面ですべての地域に対して、健康、生活、あらゆる面で長期的な支援をしてほしい。固定資産税も、土地に価値がなくなってしまっている今、税金を払う必要があるのかと憤りを感じます」（会津／女性）

### －未婚女性の意見

また、「子どもを守る」という世論のはざまで、「未婚の女性」への対策が不足していることへの危惧も表明されている。とくに、妊娠することへの不安を口にもできない状況を訴える声もある。

- 「子どもや妊婦の補償は当たり前だが、これから子どもを産む可能性のある女性に対しての補償を新しく作ってほしい」（中通り／女性）

### －高齢者の意見

家庭菜園で採れたものを孫などにあげることもできなくなったことで「生きがい」を失ったと考える方も多い。

- 「75歳の後期高齢者です。原発で、多くの楽しみや生きがいを失いました。体を動かして健康で生活していきたいと考えていました。春の山菜取り、秋のキノコ取りなど・・・家庭菜園で作った野菜も若い人達に食べてもらえない。一人で作った野菜を食べる淋しさ。どこに話せばいいんでしょう。生きる楽しみをすべてうばわれてしまいました。政権争いの前にするべきことはたくさんあるはずですよ」（中通り／女性）

### －健康について

- 「健康被害について、子供、18歳未満、妊婦は何かと取り上げられ、優先されています。これについては、当然であり守られるべきだと思いますが、これに該当しない20-40代の女性でこれから出産を望む人、家族を支えている働き盛りの男性も、もっと取り上げて、健康被害について配慮していただけると、安心できると思います」（中通り／女性）
- 「原発事故の後4月から母子で県外に避難しています。原発事故後4回鼻血を出し子どもも2回鼻血を出しました。体にいつのまにかあざが増え足の青あざもなかなか消えません。放射能と関係あるのかわかりませんが何か具合が悪いといつも放射能???と考えてしまいます。これからの健康、子どもや次の世代の健康不安で不安で仕方ありません」（中通り／女性）
- 「避難した方が良いという情報、大丈夫だという情報があり、政府の情報はもちろん、どの情報を信用したらいいのかかわからず。引っ越していく友人がでる度に自分たちの選択は間違っていないのか?と不安になります。福島はすでに様々な被害にあっていますが、本当にうつくしま福島ではなくなりました。山や川、海と豊かな自然に囲まれとてもいい環境でしたが、今は魚を釣っても食べられず、キノコやたけのこをとっても食べられず、山登りも川遊びも放射線量が心配でできなくなってしまいました。原発事故は、農業・漁業・産業などの暮らしを不安定にただけで

なく、私たちの心の安らぎもなくしたと思います。そんな中、固定資産税などは当たり前に請求される事にとっても憤りを感じているし、今後数十年後に、自分たちの子ども達に何らかの症状が出る様なことがあれば、正しい情報を公開しなかった政府や東電を相手に訴訟を起こします。福島県人は、ずっと黙っていますが、本当は腸が煮えくり返るほど怒っていると思います。福島県人をバカにしないでほしい！！！！」(中通り／女性)

- 「国が早急に対応はしないと思われまので、制度が整う前に、死亡してしまった場合に、放射能によるものであることを主張できるように解剖等の制度(データの採集が目的でない、被害者サイドにたった研究ならモルモットになります)があればと思います」(中通り／女性)
- 「18歳以下(特に10歳以下)の子供たちには、より手厚い健康管理制度要と思います。ex)当面の50年間は毎月甲状腺のエコー検診など」(松戸市／女性)
- 「ブラブラ病や、胃腸障害などの体の変調をきちんと診断してくれる医師が必要だと思います」(中通り／女性)
- 「放射線による人体への影響ははっきりしていない情報の中で子供の為に自主避難しています。仕事もやめ生活環境もすて、しかし一年がたち後悔の念につぶれそうなのが現実です、それでも決断した我々は「バカ」なのかと・・せめて子供の健康管理だけは保障できる制度ができることを切に要望いたします」(中通り／男性)
- 「4歳6歳の子共がいます。今もらうだけの損害賠償や給付金よりも将来病気になってしまった時に原発に関係ないとか言われずに手術や医療を子供たちが無料で受けれるような制度を作ってほしいです」(浜通り／女性)
- 「福島市から自主避難中です。5歳、3歳、1歳の子がいます。事故後半年間、福島にいたので子供の身体が心配です。3才の娘は咽喉の辺りに違和感があるようです。早く甲状腺検査を受けさせたいのに、何の連絡もありません。自費でも検査できる、信頼できる病院を教えてください」(山形県／女性)
- 「保養になりますが、中高生の部活、或いは課外等を兼ねた保養合宿を早急に実現して欲しい。また、尿検査、血液検査、心電図等の精密検査も早急にしてほしいです。また、マスクを無料で継続的に子供たちに配れる支援が欲しいです」(中通り／女性)
- 「小さな子供をかかえている家庭では、いくら水、食品は大丈夫といわれても、わざわざ遠くから(”地元でない”)野菜とか、水とか、をかって生活している状態。若い人達は、生活をきりつめて、子供達にあたえるものを別にしているようす。日が増すごとに、不安感でいっぱい、私達も孫たちがくると、地元でない野菜を買ったり、水を買ったりで、本当に大丈夫かと心配になっている状態です。内部被ばく検査も皆無料でうけられるようにしてほしい」(浜通り／女性)

- 「私の家では3月11日の日は土浦から娘と孫が泊まりに来ていて、一週間ぐらいガソリンもなく電車もなく、帰れない状態でした。4歳と6歳の孫は、いわき市に一週間しか住んでいなかったかが、茨城県の住所だから、被ばくに対しては、何の保障もしてもらえないのは、すっごく不安です。おかしいと思います。あの時の一週間で孫に何らかの異常があった時は、茨城県の子供にも、保障して欲しいと思います。あの日いわき市に居た子供は、いわき市の子供と同じ扱いをして欲しいと思います」(浜通り／女性)
- 「将来、今の子供達が、病気にならぬよう、どうしたらよいかを伝えてほしい。健康診断の前に、病気にならない体づくりを、教えてあげてほしい」(浜通り／女性)
- 「甲状腺のエコー検査を受けたいが、避難先で受けられる体制が整っておらず不安」(中通り／女性)
- 「まだ小さく幼稚園、学校に行っていない子の 為の支援をしてほしい。放射線の影響が大きいのに、自宅の方が数値が高く、積算量が多い。早く午前中から遊べる無料の施設を福島市に作ってほしい。今ある無料の施設は午後からの解放で、午後だと上に子供がいると学校のお迎えなどがあり、遊ばせてあげられない」(中通り／女性)

#### 一被ばく低減についての提案・要望

- 「子ども達が外にいる時間：登下校の外部被ばくを減らすため、スクールバスや路線バスを朝晩増やす。屋内市民プールをつくる：泳げない子が増える。図書館や学習施設の充実。福島空港を利用して子ども達と親が、北海道や沖縄にホームステイできる制度」(中通り／女性)
- 「福島県内西の方に、公営の安い宿泊施設がほしい。週末だけ泊まるとか、平日はそこから中通りに通ようとか。多様な使い方ができる、アパートとかロッジのような施設」(中通り／女性)
- 「20才までの子がいる家には、西日本の軟水 ミネラルウォーターの無料戸配。給食食材の県外産有機野菜・米の配給。除染を早くしてほしいが、乳児のいる家から150m以内を、特にお願いしたい。貸家は、行政を通して、強制力を持って、高線量の植木、樹木の処分をする制度が必要」(中通り／女性)
- 「一度は避難しましたが、お金が続かなくて、結局戻ってきました。(二重生活はムリでした)でもせめて週末くらいは、会津などへ遠出して子供たちを思いっきり、遊ばせたいと思い、週末のたびに出かけています。今は高速が無料なので出費はガソリン代や食事代などですんでいますが、高速無料がなくなれば、遠出するのもお金がかかり、あきらめなくてはいけないかもです。せめて、原発が収束するまでは、高速無料も続けていただきたいです」(中通り／女性)
- 「子供が給食を食べなくて良い権利です。学校に聞いたところ、認めてもらえませ

ん。学校ともめたくないの、あきらめました、同じ思いをしている人はたくさんいます。お弁当を認めてもらいたいです。せめてアンケートをとってもらい、お弁当の希望をとって欲しいです」(浜通り/女性)

- 「8歳(小2)、と4歳(年少)の子どもがいます。外での体育や活動、遊びがまったく出来ていない状況で、体力の低下や、じわじわたまるストレスを心配しています。1,2年で除染が進み、状況が良くなるとは思えません。放射線の影響で病気になるというより、体をつくる、つくられる時期に十分な活動ができず弱い体になってしまうのではと思います。一時的な保養や低線量地域でのイベントだけではなく、2,3年という長い期間で子どもの体力低下を防ぐプログラムを県内全域で展開して欲しいです。例えば近くの地域公民館で何曜日は「ダンス」放課後何曜日は「遊び」など。曜日ごと(月ごと?)に幼稚園、小学校などにインストラクターやスタッフを派遣するとか何か対策して欲しいです。仕事の都合やお金の都合で保養や避難が無理な家庭でも安心して子育てできるよう担って欲しい。大型室内遊び場を一つオープンしただけでは充分じゃないと思います」(中通り/女性)
- 「小さい子ども、特に赤ちゃんなどのいる家に安全な水をのませたいので(ミルク)定期的に安全な水を配ってほしい。福島県の妊婦特に平成23年度に出産した妊婦の(子ども)内部被ばくの検査を行ってほしい」(中通り/女性)

#### —政府の対応への批判

- 「すべての動きが遅すぎる。特に健康調査、内部被ばく調査はいっこうに進んでいない。どうなっているのか」(中通り/男性)
- 「法の整備も、決めた事の実施も、とにかく早急に行って欲しいと、強く思う!!震災から1年過ぎようとしているが、行動調査の結果すら、知らされていない状況に怒りの感情を抑える事ができません」(浜通り/男性)
- 「福島市に住んでいますが、ホールボディカウンターでの検査、甲状腺の検査、血液の検査など、全く進んでいない。あらゆる検査を一度にできる場所を早急に設置して、一ヶ所ではなく、複数ヶ所必要」(中通り/女性)
- 「国は早く、住める場所と住めない地域を決めて、前に進まなければ、いろんな支援・除染なども分散していて、もどかしい限りです」(中通り/女性)
- 「国、福島県、県内の市町村のこれまでの復興策なるものをみていくと、あたかも数年の内に元に戻るかのような「幻想」に立ち、明らかに住民の命よりも、自治体の形を残すことや経済の振興、人口の維持が念頭にあるものになっていますが、発想が全く逆だと思います」(中通り/男性)
- 「双葉町から神奈川県に避難しています。母子家庭で子供二人といます。ほんとうに、生きていくことがつらく悲しいです。国は避難者のことを人間だと思っているのでしょうか???テレビの画面からも何も伝わりません・・・」(浜通り/女性)

- 「福島市に住んでいますが、ホールボディカウンターでの検査、甲状腺の検査、血液の検査など、全く進んでいない。あらゆる検査を一度にできる場所を早急に設置して、一ヶ所ではなく、複数カ所必要」(中通り／女性)
- 「すべてにおいて時間がかかりすぎです。もっとスピートをあげて物事を進めてほしいです」(会津／女性)
- 「国も県も町も動きが遅い。日々生活している人たちの立場で早く実施してほしい。除染を希望。サービス業なので風評被害で成り立たない！」(中通り／女性)
- 「一番腹立たしいのは、国や東京電力の対応の遅さ、いつになっても消えない風評被害は、地方の事を投げている国の態度が招いていると思う。こんなに汚れてしまった県に子や孫に、残れと言えるでしょうか。絶望だらけです。1年にもなるのに、何もハッキリした答えが出ていない」(会津／女性)

#### ーカウンセリングを求める声

- 「避難は子どものみ。福島県のみならず、被災された方は無我夢中で走って来ました。私もとうとう力尽きてしまいました。精神的に参り、とうとう仕事を辞めざるを得なくなってしまいました。仕事をしていると受診する時間ありません。子どもがいると、尚のこと、自分は後まわしです。専門家によるカウンセリングを受けたいです。産業医のいる職場ばかりではありません。どんな中小企業にも医療法人にも第三者的に、何でも吐き出せる人を派遣してほしいです。私はこの1年、聞き役もしながら業務もこなし、育児も嫁としてもやってきました。本当に、本当に疲れました、でもそれを言えない立場でした、とうとうダメになりました」(中通り／女性)

#### ー借り上げ住宅・仮設住宅の期限延長などを求める声

避難されている方は借り上げ住宅の期限延長を求めています。

- 「去年の七月から、山形県に自主避難しています。二年間、民間の住宅を借り上げてもらえますが、二年後に帰れるとは思えません。線量が年間一ミリシーベルトを越える地域に対しては、線量の低い安全な地域に住宅を保証してもらいたいと強く思います」(中通り／女性)
- 「仮設住宅の入居期限を2年という短いスパンではなく、5~10年単位で設定、延長してほしい」(中通り／女性)
- 「20km 圏内避難者です。国は元の土地に帰らせることばかり考えているが、故郷に戻らないと決めた人への支援も具体的に検討してほしい。雇用促進住宅なども長期の無料を検討してほしい」(浜通り／男性)
- 「避難者用の公営住宅を作ってほしい。仮設や借り上げにいつまで住めるのか、わからないし、ガマンガマンの生活で毎日の生活がストレスでいっぱいです。避難し

てから、体調不良も続いています。なんとかしてほしい」(中通り／女性)

- 「郡山市→新潟市に避難中です。ローンも抱える中、借上げがいつで終了するのかと考えると不安で仕方がない。借上げ住宅を来年4月以降も延長出来るようにしてほしい」(中通り／女性)

#### 一賠償について

- 「東電はもっと賠償に力を入れなければならない。もし、工場から黒いススが出て、近所を汚せば、全部損害に対して賠償しなければならない。福島県なんて真黒の状態である。見えないことをいい事に、反省のカケラも見えない。冬ボーナスも出たと聞く。そして、3万人もいる社員が事故後、何人が福島に来て何をしてくれたのか。外出できない地域に食料や水を配ったりもしなかった。早く国は、復興を進めてもらいたい。東電にはもっと賠償をさせないと」(中通り／男性)
- 「自営業なので、風評被害による減収分を請求したが、東電は関係のない書類まで求めてくるので、面倒になってやめた。払う気がないんだなと思った」(中通り／女性)
- 「今まで、米・野菜自給できたのが出来ず、その分生活費がかかります。その生活支援をしてほしい」(中通り／女性)

#### 一県外の方の意見

宮城や千葉など県外でもホットスポットがあり、線量の高い地域がある。数は少ないが、そうした方からの回答もあった。

- 「低線量の長期被ばく、内部被曝がとても心配です。宮城県は降下物調査も、独自の土壌調査も行わず、県南で行なわれた健康調査(甲状腺など)も「継続調査の必要性なし」と決定しました。調査も情報公開もされず、安全神話が幅を利かせていることに危機感を感じています。今すぐに移住できる状態にもなく、ずるずるとこの場所に留め置かれているような毎日です。住民の健康を守る対策を、議員や議会などに要望していますが、まだまだ先が見えず、不安な毎日です。上記のような措置が一日でも早く実施される事を願います」(宮城県／女性)
- 「千葉県柏市は、福島の汚染地域と同等の汚染状況です。フクシマには、健康調査などもありますが、こちらでは、市役所でも問題は、ありえないという立場で、相談に応じています。こちらにも 定期的な健康診断、健康相談は必要です。市役所は、まだ、こちらの要望に応えようとする姿勢がありますが、県は、全く無視状態です。県で健康調査、医療相談、必要な医療を支援する仕組み、必要な保養制度を作してほしい」(千葉県／女性)

## —各区域の設定などについて

- 「土壤汚染のレベルをしっかり調べて、それを元にもう一度避難区域、立ち入り禁止区域などの設定を考慮していただきたい。まず、県や市町村の維持が第一ではなく、子どもやわたしたちの健康を第一に考えて欲しい。今の様子を見てみると、市町村の維持が先に立って、危険な場所に住民を戻そうとしている、もしくは、危険にもかかわらず、住民を避難させないようにしているとしたか思えない。チェルノブイリのように、土壤汚染のレベルで区域を決めなおしていただきたい」（中通り／女性）
- 「私は浪江町に住んでおりましたが数日前に発表された今後の再編である避難区域の変更で自宅の年間線量が 3.8mSv 以下（年間 20msv 以下）の避難解除準備区域の地区になっていました。（我が家はぎりぎり MAX の 20mSv に近い）自宅の地区を取り囲むように 50msv 以上の帰還困難区域が広がっておりそんな地域でも今後除染をして以下 5.2msv になろうものならきつと権など与えてもらえないのではと不安で不安で仕方ありません。なみえまちふれあいセンターという場所で先行して除染した結果 6.27 から 2.28 に線量が下がりました。これだけ下がるのですから（今後また上がる？）今後住宅も除染をして一定の箇所だけ基準に計測して『はい大丈夫です。お帰り下さい』と言い出すのではないのでしょうか？どこまでも疑い深くなるのはご存知の通りです。浪江町は故郷です。何処にも代えがたい大好きな故郷ですが命より大切なものはないと思います。私は子供や子孫のためには自分がどんな辛い状況になっても帰ってはいけないと思っています。一番必要と思う制度に賠償を挙げたのも（健康管理の無料化は当たり前）みんな新しい人生を送るのにはどうしてもお金が必要になります。（こうして避難生活をしてお金の大切さもしみじみ感じました）家のローンも抱えこの先どうしていいのか？避難準備解除区域になって解除されても買上げもされずでは生活が成り立たなくなってしまう。（戻らつもりはないので…でも買上げがないなら戻るしか選択はなくなるのか…苦悩は続きます…）帰宅困難区域 50mSv 以上の方々は『かえって良かった。新たな一歩が踏める』とっています」（浜通り／女性）
- 「住んでいた住居の放射線量に係らず移住権を！ 3 つの区域に再編されても賠償など公平に！放射線量で区域を分けられそれぞれの人生まで分けられるのは納得がいきません」（浜通り／男性）
- 「南相馬市 ・小中高生への学力・低下の原因となった事に対する保障。何か対策を考えて欲しい。 ・除染が出来ない所はすべて国に買い取って頂きたい。（田畑作っても売れない、食べれない）私の家は H23.3.11~4.22 まで立ち入り禁止区域となりました。H23.4.22~はすぐ目の前が（20m、30m 先）避難区域に指定され、我が家は緊急時、準備避難区域となったのです。この地域の指定についてとても納得できません。いくら戻れと言われてもすぐ目の前が 20 キロ圏内になっていて夜に



なると廻りも暗く不気味で住むわけには行きません。政府は、もっときめ細やかに区域指定です。21キロ～22キロ圏内は、20キロ圏内と同じ扱い方とするべきだと思います。(保障も含め)政府は、あまりにも基準が甘すぎ、考えが甘すぎです」(浜通り／女性)

- 「正直現在の警戒区域に戻る気はないので、その土地を買い上げてくれる制度がほしい。今度の見直しで帰還困難区域からも外れても住める場所なわけでない。それなのに普通に固定資産税が徴収されるのは納得いかない。新しい場所に転居しやすくするためにそういうしくみがほしい。そうすれば新しいスタートを始められる人がたくさんいるはず」(浜通り／女性)
- 「今朝の新聞に避難準備区域の賠償は年内打ち切りとあった。これから警戒区域は3つに分けられ、我が町は3つに分断される。例えば避難準備区域の広野町でさえ人口の1/10も戻っていないのに我が町浪江には、果たして人口の何割が戻るのか？そういう所で店を再開しても商売がたちゆかないのは、目に見えている。そしてあと2年位で賠償打ち切りとなれば、死ねと言われてるのに等しいとは思いませんか？私は土地も家も買ってはもらえない避難指示解除準備区域の住民です」(浜通り／女性)

#### 一里帰り出産など住民票と被ばく地が異なるケース

- 「孫は福島市で生まれ、5月までいたのに、福島の子供達はいろいろやってもらっているのに、何もしてもらえないのです。変ですよ、細やかに、やってもらいたいです。時がたてばたつほど心が重くなってきて、この気持ちをどこにぶつけていいのかわかりません。福島市に住んでいるのですが、結構最初から放射線量がかかったんですが、それを知らされず、水を求め、食料を求め、ガソリンを求めて、案時間長い列にならんだのです。これから何十年後が、とても心配です(手帳を!) お願いですが、3月11日のあの日、私の娘は、里帰り出産のため、ここ、福島市にきておりました。そして、出産、それからが大変でした。母乳をのませるため、母親の食べ物、飲み物に、とても気をつかい、心配して、育児をしておりました。あの時のことを思い出すと涙がでます。そして早々と帰って行きました。育児に不安を抱えながら! 今東電は23市町村に精神的被害を受けたとして賠償すると決めました。状況が避難するにも避難できなかった。ぜひ、里帰り出産をした人達にも賠償をお願いします!!」(中通り／女性)
- 「いわき市で配布された安定ヨウ素剤について納得がいきません。住民票がない40才以下には配布されません。学生が帰省した時、里帰り出産をしていた時、原発事故が起きたら、対処できません。住民票を移していない大学生、社会人には届きます。それは今後賠償金を支払われる時も同じだと思われます。住民票に基づいてということに対して不公平感しかわきません。安定ヨウ素剤は40才以上にも配

布していただきたいです」(浜通り／女性)

#### －その他の意見（複合的な意見など含む）

- 「私は農民です。田・畑の細かい測定を（福島県だけではなく、近県も）してほしいです。影響の程度によって、「作れない土地」には補償を、「作っても売れない土地」には、それなりの支援とベクレルを下げるための助成を、ぜひ考えてほしいです」(中通り／女性)
- 「昨年 9 月より福島市より自主避難しています 雇用状態も厳しく、短期のバイトの仕事と貯金を切り崩しやっとなんかの生活。福島市は避難区域に指定されない為に、医療費の窓口の負担もあり、非常に困っている。医療費の負担免除や、自主避難者にも生活支援をもっと手厚くしてほしい。内部被曝の検査や甲状腺の検査も、早く受けたいのに、既に一年経とうとしている。避難先で検査を無料で受けられるようにしてほしい」(中通り／女性)
- 「中通から母子避難しております。事業者のため、夫は借金を背負ったまま避難は出来ません。家族一緒に暮らせることと家族の健康だけが望みです」(中通り／女性)
- 「福島県にいる以上放射能から避けることはできないので短期、長期の避難の支援をしてほしい」(浜通り／女性)
- 「今、子ども達は登下校時、マスク着用です（学校の指示）。少しですが、子供が複数人いると、マスク代だってバカになりません。そういう事（こまかいこと）をカバーしてほしいです。（お金でも現物支給でも）学校にまとめて支給でもいい。外での活動が制限されている。プールの授業、部活もままならないので、室内運動場の充実、プールに屋根をつけてほしい。プールの水をいちいちかえるより安上がり。学校にもっと自由を。どうか自分の保身優先な国会議員の方々の心に届くこと祈っております」(中通り／女性)
- 「家に一台、線量計の無料配布をしてほしい。避難はしたいが、仕事を辞めなければならなくなり、次に仕事につけるか保障がない。新築したばかりでローンも残っている。子供も小さいので、この先いつ病気が発生するか分からないので不安」(中通り／男性)
- 「生命保険、ガン保険を国で払ってほしい、子供が土を触って、誤って手をなめても大丈夫といえるくらいの安全な広場を作ってほしい、2 歳 3 歳の子供を持つ親は外で遊ばせられなく、太陽を浴びさせてあげたいと泣いていた、一箇所でもいいので、各地域に早急に安全な野外施設を作り、子供が安心して外で遊ばせられるようにしてほしい、小学校幼稚園児は除染したところで遊べるが、幼稚園に通っていない低年齢の子供は外で遊べない状況。春夏秋冬今までやってきた小さな楽しみが何もできなくなった、梅酒づくり、干し柿、田んぼでカエルとり、ザリガニとり、川

遊び、花見、一生できなくなった、この精神的苦痛の中で生きなければいけない、保養のための補助金、避難支援、してほしい。外で散歩も小さな子供はすぐに石を触ったり、手をなめたりするので、散歩もできない状況です」(中通り／女性)

- 「農業支援... 土壌汚染されている地域の農業制限に対する保証(汚染された食物が市場に出なくする為に)福島県民が、旅行などに行く場合、安いプランを設定してもらえるクーポンなど。除染... 人手不足なので。また森林も伐採してほしい。汚染された森林があると、その下の土壌の放射能汚染される為。とにかく、空気をめいっぱい吸える地域にして欲しい。子供たちがかわいそう。何年待てば元のように過ごせるのか。もっと真剣に向き合ってほしい」(浜通り／女性)
- 「食品の安全が約束されるまで(水・野菜・米・肉・魚等)他県産の物を手に入れる事が出来るように(安価で)していただきたい。水道水かわりにペットボトルの水を毎日毎回使うので大変です」(中通り／女性)
- 「避難準備区域に居住しており、会社も経営していますが地震の影響は全くなかったのに、社員が去り、顧客がいなくなりました。会社家族と一緒に暮らすことも出来ず、何をすることも放射線に怯えながら今後何十年という生活をつづけなければならなくなったことに、絶望感しかなく、自分の人生設計が毀損されました」(浜通り／男性)
- 「転勤族です。主人ははまだ福島市在住です。転勤しているさなかに震災にあい、悩みに悩み、避難先の実家と福島市を何度も行ったり来たりしました。(略)あとき福島にいて普通は浴びないものを浴びているのだから、しっかり保障してほしいです。でないと、娘をこの先お嫁に出したり、将来が不安でしかたありません。支援も必要。自主避難したひとにもしない人にもそれぞれ理由があります。しなくていい自主避難を選んだのだから、家族バラバラになった苦痛、2重の生活費、どうぞどうぞ補償してほしいです。福島県以外は普通に暮らしていますよ。毎日笑って。わたしたちだって笑いたいです」(北海道／女性)
- 「私たちは被害者意識は少ないとは思っておりますが、原発の事故は余分でした。公平な支援が大切だと存じます。我が家の軒下の線量を計量すると大変バラツキが出ています。最大8から15uSv/hもあります。除染後は、0.3~3uSv/hです」(中通り／男性)
- 「とにかく、子供たちの将来が不安。今後どのような影響があるのか全くわからないし、もし何かあった時にきちんとした対応をしてもらいたい。それから、自主避難をしたいけど、引っ越しの費用や仕事をやめて引っ越し後の生活費が不安で行動できない。仮に引っ越したとして、引っ越し先の人から福島だということで受け入れてもらえるのか不安。特に子供が幼稚園や小学校でいじめられたりしないか…」(中通り／女性)
- 「メルtdownの可能性を知らながら なぜ枝野 官房長官は『直ちに身体に被害

を及ぼす状況でない』と言いつけたのか。政府、テレビ、原発の科学 技術者の責任を明らかにしてほしい。なぜ原発事故に関してだれも責任を取らない のか。食品の線量計を身近に設置してほしい。学校に一台とか、支所、町内会に各一台とかの単位で、去年は苗木を植えてから初めて実った柿を全部捨てた。近所の農家から頂いた野菜も心配で食べられない。隠れて捨てている人もいる、そんな状況です」  
(中通り／男性)

- 「一番は健康を守ること、それを行うには 正しい情報と適切な判断。もちろん健康を守るために、必要な 給付、支援はあたりまえです！自主避難したくても仕事や生活費のふたんで出来ません。子どもが早く外で遊べる様になってほしいです。かぜをひいた事なかったのに今年のかぜで3週間も学校へ行けません。体力も低下しています。その場だけの支援でなく毎日生活していることへの 支援を求めます」  
(中通り／女性)
- 「この何年かは放射線の影響があつて住むには適当ではないと考えられる地域は、早く立入禁止区域に指定し、国でその土地を買い上げて、住めないとはっきりさせないといつまでも帰りたいという願いがちきれず、心の整理がつけられない状態にしておかれるようで、当事者にすれば酷な話ではあるのですが、どっちつかずもこれも困ったことだと思います」(中通り／女性)
- 「私のおじさんは、東海村の原発の配管工事の後、3年位して、骨のガンで亡くなりました。若い人にやらせる訳にはいかないと自分で入りました。病院では何か特別な仕事をしていましたかと、家族が聞かれました。今、思えば、泣き寝入りせず、伝えるべきだったのです。(略)自分で家や庭を除染しているが、なぜ東京電力の社員は、福島に来て手伝わぬのか！」(中通り／女性)
- 「治療より予防、除染より避難、だと強く思います。被災地の子供達が安心して笑顔で過ごせるような日本にしていくために」(東京都／女性)
- 「外に出て子供が土や草、除染をしていないさまざまな物を触ろうとした時『触っちゃダメ!!』と言う親の気持ちがわかりますか？」(中通り／女性)
- 「孫達は新潟へ避難しています。孫達の為にリフォームした広い部屋は 遊具、おもちゃだけが使わないで置かれた ままです。ささやかな幸せを奪われさびしい日々です」(中通り／女性)
- 「自主避難は慣れない土地で過ごす精神的リスクが大きいと感じました。子供が2人いますが、中3と11か月の乳児・・・受験を控えているので、福島と栃木を行ったりきたりの生活。二重生活が家計に重くのしかかる・・・周りは小さい子供がいないので『心配しすぎ』と・・・除染も地区全員でやらなければ意味がない・・・疲れました。実家では、りんごの剪定をし汚染している枝を燃やしています。セシウムが飛ぶ！？(みんなやってるからやるそうです) 食品を自分で気軽に放射能の測定できる場所があればいいです。コンビニみたいに気軽に測れるといいで

すね。基準値ももっともっと低くし、子供を守るべきです」(中通り／女性)

- 「避難民の多くには原発関係者がおります。避難しながら収束に携わる人々の複雑な思い。またその家族の辛い心情。声に出したくても出せない事情があります」(浜通り／女性)
- 「この原発の汚染に対する意識も表面化してないのが現状です。みんな自分の意見を言えないんです。苦しんでいる被災者に支援をお願いします」(中通り／女性)
- 「毎日、原発、水、食料、放射線など余計なこと考えずに暮らしたい。(もう疲れました。)(何年続くのでしょうか?)」(中通り／女性)
- 「移住しても支援していただけたら嬉しいです。お金があれば移住したいです。本当の情報が知りたいです。毎日ここで生活していて大丈夫かととても心配です。食べ物、飲み物、吸っている空気・・・子ども達の将来も心配です。県民全員を移住させられないから「安心だ」と言っているのでは?と思ってしまいます」(浜通り／女性)
- 「お金のばらまきよりも、とにかく病気にならないように見守り、生きていけるようにしてほしい」(浜通り／女性)
- 「現在も放射能は出ているはず、政府は情報公開を確実にして欲しい 法案を決定するなら福島県に居住してから決定して欲しい。国が情報を制限したのだから、健康診断は無料化、それに関する医療費も無料化するのは 当然の様に思える。雇用や収入の面で避難できない状態の精神的苦痛は言い尽くせない」(中通り／女性)
- 「水道水や食品の基準値がほんとうに安全なのか不安なので、選んで食べています。金銭的に大変なので、そのような支援があるとありがたいです。また、外遊びさせたくないの、休日に遠くに外出して遊ばせるということをしています。ガソリン代、高速料金...とても大変です。屋内施設がもっと 増えるとありがたいです」(浜通り／女性)
- 「原発はもういらぬです!!人が少なくなって企業、社会が 成り立っていかなくなる。南相馬は区域解除されても人々が戻って来ずと聞きました。R6,せめて常磐道を早急に開通してもらわないと関東にいくのも来るのも非常に困り、産業も回復せずすたれてしまうばかりです。早急に開通!!」(浜通り／女性)
- 「私達はモルモットではありません。なぜ東電も国も放射能の恐ろしさをかくすのでしょうか? 第一から7キロ圏内に住んでいた者です。着のみ着たまま 何が何だか解らずバスに乗せられ連れてこられました。それがきびしい避難の始まりでした。今の私の心境です。毎日笑って暮らしていたあの頃の私を返して下さい 生き甲斐を持って充実していたあの頃の私を返してください原発の安全性を疑うことなくのんびりと暮らしていたあの頃の 私を返して下さい。でも生活が一変しました。なぜなぜこんなはずではなかったの連発です。もう後には戻れません。3/11 前には戻れないのです。目に見えない放射能があるからです。こんな悲しいことがある

でしょうか。原発が憎い。全てを奪った原発が憎いです」(中通り／女性)

- 「我が家は浪江町 避難して一時帰宅するために家が朽ちてとどろんいたんでいる。もう住めない状態である。除染しても住める状態にはならない。帰れない。なら、先のみえない状態で暮らしているのは死ぬ程つらい。代わりの土地か、補償金で支援してほしい」(浜通り／女性)
- 「避難したくても雇用がなければ、できません。子ども特に小学生の学校単位での保養を望みます。除染は移染なのでムダです。その分の費用を再生エネルギーの雇用創出にあててほしい。汚い電気を使わないですむ選択を作してほしい」(中通り／女性)
- 「津波で家を流され、新たに高い自分の土地に家を建てる際、中々市から許可がおりなかった。親せきも、家を流され私の土地で少し高い津波のこなかった場所を安く提供し、測量なども終わり、いざ建てるとなった時、市から『そこは建ててはいけない』と言われた。理由は農地だから。隣に家がない。などと言う。一個あけてその隣には家があるのに。田を減反しろと言い、なん年も前に減反したのに、今度は農地を守るためにできた法律だとか何とか。なぜこの災害時にあだこうだ言って家を建てさせないようにしているのかわからない。仮設は後1年で2年になってしまう。なぜ法律だのと言って許可を出さないのか。災害時なのに被害者のためになっていない！近くにできた復興庁にも行ってみた。『わかりません』『上に言っておきます』だけ。なんのために復興庁を設地したのかさえわからない。何の役にも立たない。逆に言えば、復興の妨げになっている部分もある。放射能の被災も実際線量が高いのは福島浜通りより中通り。なぜ低い方に賠償金を払い、高い地域に払わない。原発近くの方は、浜よりも線量の高い方に避難している。矛盾がたくさんでてくる...としかく、なぜ作った法律なのに作り直せないのか...。国会議員は給料だけ高くして何も国をよくしていない。議論だけの仕事はいらなと思う」(浜通り／女性)
- 「西郷村に住んでいますが、駅前 1.5 マイクロシーベルト、家の中 0.5 家の外 3~5~10 マイクロシーベルト 林の中 10 以上、テラス洗っても 2 これでは補償がないのはおかしいと思います。明日広島に家族 4 人で行く知り合い があります」(中通り／女性)
- 「内部被曝について、科学でわかっていないことが多いことを前提に、私たちひとりひとりのいのちと暮らしに寄り添った、医療がほしい。医療が無料化されても、今の福島県の医療では、「気にしすぎ」などと帰って追い詰められる可能性が高い。・ 選択的避難区域を設定し、避難の権利および帰還権を保障してほしい。これは、福島の渡したちにとって基本的人権が保障されるために不可欠のものだと思う。・ 福島原発事故現場の状況についてのリアルタイムの詳細な情報開示も、県内残留者のいのちと健康を守るために不可欠である。事故機の崩落など、再び放射能

大量放出の事態となった時に、どのように情報を素早く伝え、避難をするのか。ヨウ素剤の配布はどうするのか。そうした対策が十分なされていなければ、福島の人々の健康といのちは守れない。・山下俊一氏らが行っている県民健康調査は、目的設定や調査項目など多々問題がある。この健康調査以外の調査を、国がさせない（お金を出さない）という方針を変えるべき。県民のこうむった被曝と健康影響についての調査は、複数行われ、相互に検証されるべき。このままでは、将来必要となるデータすらとれない危機だと感じる。・事故現場の状況、放射能汚染の状況、健康に関する情報などを、被害当事者がアクセスできる権利が保障されるべき。・避難者が避難地で、健康相談、健康診断、医療的サポートを受けられるようにしてほしい。・県内残留者も、家族の避難先や保養先で、健康相談、健康診断、医療的サポートを受けられるようにしてほしい。・放射能は有用・安全教育に反対します。放射能汚染地に必要なのは、不安も含めて、放射能について、汚染の現実の中でどう暮らしていくかについて、タブーなく話し合えるような空気。3・11前の原発をタブーとするような空気よりもさらに重苦しい空気が、福島の人々を苦しめている。子ども達を守るために、大人同士が助け合いつながらなければ。・疾病調査(?)を、福島県でも直ちに再開してほしい。データをとらずに、なきものにしないで！」  
(中通り／女性)

- 「国、東電の人達に福島で生活してもらい（年単位で）県民の生活を実感してもらって私達と同じ立場で考えて欲しい。震災から一年がたとうとしています、未だに内部被ばくの検査を受けられません。全国からの協力を仰ぎ、一回目だけでも早く実施してもらいたいです。県民健康調査の結果も手元に届きません。今自分達がどれくらい被ばくしているものか早く知りたいです。また、除染も遅れています。国が責任を持って除染する所は限られていて、殆どは、住民まで参加し自宅を除染するとの事ですし、仮置き場（表土等の）が無い所は敷地内に埋めるしかないようです。これはとても納得いくものではありません。住民が参加して行うのではなく、東電の社員がやるべきではないですか？とかく避難民だけが「大変だ、大変だ」とTV やラジオで報道されていますが、他県でのびのびと外遊びをしたり、いろいろな支援をしてもらっている子供の様子を見たり聞いたりすると、県内で、放射能を心配し、食べ物、外出等々制限されている子供達がかわいそうに思えてなりません。中通りの人だって精神的苦痛は震災当初よりひどくなっています」(中通り／女性)
- 「まさか福島がこんなことになるとは…。とにかくすぐに福島から離れるべきだと思う。室内遊び場をいくらつくっても、こどもがあんな場所で満足するはずがない。こどもは外で、太陽の光の下で育つ。いつまで、そういった生活が続くのだろうか。放射能を考えていたら生活できない。と言う人もたくさんいる。放射能の話さえタブーになりつつある。そうして、みんな忘れようとする。原発が収束しているわけでもない、まだ放射性物質は出続けている。つまり、被曝し続けているということ

を決して忘れてはいけない」(福岡県／女性)

- 「私は仕事関係で農家さんと接する機会があります。その方々の声を聞くと生活する事にも大変さを感じます。手をかけて作った作物が売れません。本当に死活問題です。農家さんの顔から笑顔が消えました。将来の日本の職も心配です。こんな時だからこそ、私は地産地消でやっていきます」(浜通り／女性)
- 「アンケート用紙を見つけて嬉しかったです。中々声を聞いていただける場所がないのです。宜しくお願いします。一、ウクライナと同じような健康を守る制度を！！子供達を守ってほしい。個人の努力では限界が。国が制度として、早急に実施すべき事！！原発政策をとってきた国はその責任として人命を最優先しなければならない。子供達を見ていると胸が痛いです。二、屋根、雨桶、交換の費用補助(実費)を！現在の除染(高圧洗浄機)では屋根は、無理。仮置き場が決まらず、除染が進んでいない」(中通り／女性)
- 「移住したい・本当のことが知りたい。・何をどのように食べたら良いのか、悪いのか、まったくわからない。・新潟岩船に米を買いに行ってきました。・自分で作っている家庭菜園が可愛そう。・山菜取りも、散策もままならない。・原発廃止を願います」(中通り／女性)
- 「自主避難をした方に補償を上乗せするということですが、私たち、残ってる人も、やむを得ず、残っています。そのストレスを理解して頂き、あらゆる面(健康、心、金銭面)でのサポートをお願いします。ミネラルウォーター、県外産の米、野菜 etc、今まで以上の出費です。水、野菜、加工品など、1つひとつの放射線の値を明記してほしい。近頃は「川」の放射線値が発表になったが、水道水の値は、何も知らされていない。4月以降、10ベクレルに規制されるが中通りはクリアできるのか。政府で発表される数値(すべてに対して)は、どこまで、本当なのか、疑問が残る。私たちも1ヶ月でもいいから、汚染されていない土地で、空気・水・野菜...何も考えないで保養できる、そういう制度を義務化してほしい。相当のストレスの中で生活している私達のことを補償してほしい」(中通り／女性)
- 「『福島の再生なくして...』と野田総理のお言葉を信じたいと思います。よろしくお願い致します。”福島は負けない！”でも時々つらくなります。妊婦と孫がいた為避難しました。賠償の子供40万、大人8万と一時的なものでなく、子供に関しては、長期に渡り、定期的な甲状腺検査の実施、治療が必要な場合の負担をお願いしたい。現在政府より震災時の申告な情報が小出しにでていますが、今さらという感じ。原発に関しても...専門家の意見がまちまちで誰を信じていいのか、何を信じていいのかわからない。廃炉まで40年かかるというのに収束したかのような状況。福島県だけがとり残される感じ」(浜通り／女性)
- 「当時18歳以下でも、今後病気が発病したとき、18歳以上では、本人が病気に苦しみ、大事な時間も失くし経済的にも負担が発生する。因果関係は明確にできない



と不安ばかりがつのります。お金があったら、遠くへ引っ越したいです。病気が発病する時間は？娘が何年かして、病気になったら、当日から、ずっと避難できなかった私のせいです。福島県は18歳未満の子供の医療費を無料と、予算を組むらしいですが、チェルノブイリで、一番影響が出たのは16歳～18歳で、30%近くです。次が0歳～です。私の娘は当時16歳です。今は17歳です。私は車ガソリンを補給する事もできず、障害があり、重い物を持って、移動もできず、長く歩く事ができません。娘と二人、ずっと自宅でTVを見て、支援物資もなく避難して、温泉旅館を渡り歩いている人々をうらやましく見ていました。遠くに離れている息子にも会えずに終わりかも、と娘と二人、ずっと家にいて泣いていました。自分の非力さを痛感した時でした」(浜通り/女性)

- 「『国民の命を守る責任を果たす制度を！』原発4km圏内に3/11のひと月前に嫁いだものです。避難生活中、流産を経て今妊娠6ヶ月を無事迎えることができ多くの不安の中にも幸せを感じています。被災者、避難者、皆が各々の辛さ、不安、様々な思いを胸に日々を送っています。国の無責任さには落たんしつつも高い放射線量の残り続ける地域を古郷にせざる得ないかもしれないお腹の子、子供たちの為に来ることをしていく責任を痛感しています」(中通り/女性)
- 「私自身、もう長生きしたくない。子供もかえってこない。たまに来ても被ばくが心配で早く帰らせてしまう。山の幸も食べさせられず、なつかしい料理も食材しないで食べさせてあげられない、ごちそうが作れない」(中通り/女性)
- 「受診したいのにできない(例えば、仕事の休みがとれないなど)というようなことがないよいしっかりした体制も作っていただきたい。この返信が何かを変える働きを本当にするのでしょうか。このアンケート用紙に参考として載せられていたウクライナの区域設定についても、私にとっては、ただ不安を大きくさせられただけです。○就学児向けの取り組み(県外などへ数日出かける等)はいくつか目にするのが、未就学児、特に親と一緒に過ごす子への対策が何も無いと思います。線量計を3ヶ月つけ、結果はいただきましたが、正直あれだけのことで、何の不安解決にもなっていません。避難もできず、不安ばかりの中で、ただ子どもを守るために家にこもって生活するしかないのでしょうか。線量が高い地区の人達から行っている内部被ばく検査も、私たちにはいつになったら、順番がまわってくるのでしょうか。一年たっても何も変わらない現状に、もう前向きに頑張る気力もわきません」(中通り/女性)
- 「現在福島県に留まっている人の不安を少しでも減らす為に、将来の放射能の影響を受けるであろう健康被害に対しては、政府は最大限の保障をしてほしいです。原発事故から早一年が過ぎようとしています。放射能は目に見えない為、何事もなかったようですが、福島県民は不安を押し殺して、表面上は明るく振るまっていますが、とても深く傷ついていると思います。(いろんな面で風評被害や、メディアの

報道など)」(中通り／女性)

- 「私は、福島の渡利に住んでいます。家族は、子ども(孫)と妊婦がいっしょに住んでいて、1日も早い除染を待っているところです。渡利の除染は、10か月くらいかかるとのことで、その間に少しでも放射線の低い所に避難させたいです。孫や妊婦がいるので、とても心配です。3月まで近くの土湯温泉に低料金で避難できるようなのですが、なかなか折りあいがつかず、まだ使用できていません。もっと長く！自由に！安く！いけるように、ぜひぜひ基金のようなものを作ってもらえたら良いと思います。将来の孫と妊娠の健康がとても心配です。10年20年、医療費(万が一のために)無料制度も作ってもらいたい」(中通り／女性)
- 「福島に住んでいます。こないだ町内で放射能測定器の貸し出しがありました。家の中もすべて0.3マイクロシーベルト以上ありました。お風呂も台所も二階の部屋すべてです。近所の人や福島の人達は毎日毎日放射能を浴びているのと同じだといっていました。庭は1.0以上ありました。実際数値にあらわれると、とても心配になりました。私達はいいのですが20、25ぐらいの子供が三人います。30年後、ガンになるとかいられていますが、働きざかりの頃に病気がでたら、大変です。毎年、将来のためにも、内部被ばく検査を毎年企業で無料でやるとか、証拠を提出できるようにしてほしいです。被ばく前は、たくさんの野菜をたべていました。食べ物も県外は高く、野菜を思うようにたべさせられません。子供達がとても心配です。福島の子供を守ってください」(中通り／女性)
- 福島県西白河郡泉崎村 今回、原発の賠償外地域に住んでおりますが、原発爆発後、当時「中学3年生の子供を東京へ一人避難させました。一か月程でしたが、郡山の高校入学も決まっております、入学式直前に福島へ帰ってきました。一日の大半を部活動があり、郡山へ行っている時間が長い中、親としての不安は多々あります。そこで線引きされた県南、会津の人にはおなじような不安を持っている方は沢山いると思います。同じ福島に住んでいて、避難したくてもさまざまな事情でできない方は沢山います。どうか、こうした不安と、国に対する不満を、このアンケートで伝えて頂きたいと思います。まだまだ先のある若い子供達の為にも、福島県全てを支援していただきたい」(中通り／女性)
- 「福島の伊達市に近いので、ぶつけようのない怒りと失望感でいっぱいです。元のきれいな福島に戻してください。定期的に中通りまでの内部被ばくの検査や食物の検査がすぐできる機械の充実、身近(地元)なスーパー、商店、公民館に何台も備えてもらいたい。八万円もらって終わりとかの問題ではどうも有りません。山も森も畑、宅地、きれいにして帰せと言いたい。放射線に関する事すべて、福島県民に対して償っていただきたい、原発は絶対、反対」(中通り／女性)
- 「私は今年子供を死産しました。自宅は夏時点で庭2~3マイクロシーベルトありました。避難も真剣に考えていましたが、結局一度もしないで現在に至ります。上

記の無料化よりも本当は医療が必要ないように早く不安をなくしてほしいです。自費で除染しましたが、思っていたより効果が出ませんでした。汚染された地を早く子供が安心して遊べる地にしてほしいと思っています。5才になったばかりの子供は昔に戻りたいと泣いています」(中通り／女性)

- 「客商売は大変な売上減です。とり合えず長期の支援を求める」(会津・男性)
- 「国や自治体は、本当に子供を守ろうとしているのでしょうか。何とかして、子供を危険であっても、そこに残すためにどうするかを考えているとしか思えません。下の子供には、まだ2才で一日中家にいえますが、家の中にいても、毎時0.2マイクロシーベルト以上の被ばくをしているかと思うと、一刻も早く安全なところに避難したくて、たまりません。仕事や家のローン等もあり、自主的に行うには、リスクが高く、夫は消極的です。ウクライナと同じ制度ができることを強く望みます」(中通り／女性)
- 「59才女です。義父は介護5 義母は物忘れがひどく働けません。夫はトラックの運転手で地震になってから東北に仕事がなくなりおもに関西九州方面で働いています。次男はちょうど仕事がなくて岐阜に孫三人連れて避難し、あと二年いられると言っています。もどって来るつもりはない感じです。孫がいないと家の中は生気がありません。一年に三回ぐらい帰るぐらいだと孫もだんだん遠のいてしまいます。義父母が増やした田、畑したり、草だけは私が刈りそのままです。一ヶ所は前の家に3才ぐらいの女の子がいて大丈夫かなと思って心配しています。秋に庭の放射線量測ったら40くらいありました。町では0.3~0.4くらいです。どこの家にもホットスポットはあるみたいです。家だけだったらいいのですが、田、畑の事も考えるとイライラします。除染は自分の家でやらなくてはだめだと役場は言います。干した柿とかだめ、土地の値段は下がる、良い事はありません。夫は60になりいつ仕事クビになるかとビクビクしています。土地売りたくても買う人はいない。老後が心配です。税金だけは必ず払わなければとなると。色々放射線量高い近い所を新聞で見ると心配です」(中通り／女性)
- 「東京電力は、放射線の数字の値をありのまま隠さずに国民に報告してもらいたい。と思う。何ヶ月も過ぎてから教えられても線量は体に入っています。福島県民の気持ちをもう少し真剣になって考えてほしい。どれだけ心の疵になっているか。米、野菜、水、すべて県外から購入して生活しています。出費も倍かかります。生活の保障をしてもらいたいです。60km離れていてもまた、高いところで家の周りの値が1.02マイクロシーベルトあります。部屋でも0.3です」(中通り／女性)
- 「住所：二本松市 年齢：35歳 子供：5歳、2歳(ともに女兒) 最も高線量だったころには避難の必要性を感じなかった(TV、新聞の報道などから)。家族がばらばらになるのも嫌だったし、実父母、義理父母からも”母子避難なんて離婚でもするみたい”(笑)と理解もえられなかったです。※まずは意見をいうことができるこ

の広告がはいったことに感謝します」(中通り)

- 「※情報が少なく、県民は不安です。(新聞・テレビ・ラジオ) 高年令の方々に厚い手当を！！”くらし”は大変です。心身共に支えて下さい(期待)。福島県民の為にいろいろ考えていただきありがとうございます。本日(2/24)放射線量は、0.71uSv/hの地に住んで普通に日常生活をしております。廻りに自主避難者(子供・幼児有)も多いと思う。当初低線量なので大丈夫との専門の先生の報道から一年がたち、皆情報でふりまわされているのが現状です。やはり一生涯この放射線に対しては全県民の「健康」の為に制度として手帳の交付は必要と思っています」(中通り/女性)
- 「いろいろと相談する電話番号一覧を各家庭に配ってほしい。福島市内に住んでいるが、精神的にかなり大変な状態なのに何も変わっていない。庭の土を削って、コンクリートにしたが費用だけかかって、かといって引越しもできず福島市民はみんなが我慢している人ばかりです」(中通り/女性)
- 「福島県民はみな、被害者(原発の)だと思う。線引きはひどい！！私も米農家、野菜も作っている。安く買い叩かれ、売れば良いほうだが、将来も大変不安です。生活の基盤が崩れてしまうのでは？今60歳過ぎているが若い人たちの健康が一番心配です」(中通り/女性)
- 「全部無料化になればこんなに有り難い事はないですが、その為に消費税のアップ年金の削減のほうがもっとこわいです。それならば、若い人も、お年寄りも守られていると感じられる制度にしてほしいです。年金けずられ、年寄りは光がないからと汚染されている所で作物づくり、それを食べている現状です」(浜通り/女性)
- 「3.11 近辺は政府の『安全である』という言葉を信用し、家族皆、普通に生活してしまい、後悔の念ばかりです。上記の「健康管理手帳交付」制度は賛成です。子供たちはこれから先長いのですから、死ぬまで健康面の管理はし続け、又、それらデータは未来の「放射線が与える健康被害の分野に活かして欲しいです。福島県民の苦痛をムダにして欲しくありません。とにかく、子供達の健康が心配でなりません。健康であればこそ、夢の実現もできるわけですから」(会津/女性)
- 「政治かの方々、国会で足のひっぱりあいをしてないで被災地の事を真剣に考えて下さい。国会中継等、みていられないです。個人の田畑の土壌検査をして下さい 子供や孫達が食べる野菜を自宅の畑で作っても大丈夫か東京電力による人災のためにおこった事故だと思えます。東電は責任をもって県内全部の除染をし、また元のように住みやすい福島県を作ってください。放射能やセシウムの数値を気にしないで生活したいです。子供達、孫達にも、自分で作った野菜等を食べさせたいです。私達は、何も悪い事はしていません。自分達で除染をするというのはおかしいと思えます。国・東電で責任をもって全て除染すべきだと思います。責任をとって下さい」(浜通り/女性)

- 「我が家は農家です。家・田・畑を持って移住は出来ません。果樹園は1マイクロシーベルト、子孫たちには、辛いです。これほど汚した国・東電は誠意を持って償うべきだ。8万円（一般）40万円（18才以下）の慰謝料はふざけている」（中通り／男性）
- 「経済的には消して豊かではない地域でしたが、自然の恵みをたくさん受けて畑を耕し、木の実を育て、風を感じながら生活してきました。たくさんの方の人生を踏みにじってしまった原発、本当に残念で悔しいです。この悲劇をこれ以上増やさないために、原発をなくしてほしいです」（中通り／女性）
- 「計画的避難区域から避難中。年間 20mSv～50mSv 以下に該当する地域。自宅のすぐ近くのモニタリングの数値を見ると年間 50mSv には至らないが、それに近い数値になる。そんな区域が本当に除染して2年で帰れるのか、疑問に思うし、不安である。安心という専門家、国会議員にこの地域に住んで欲しい。それから議論をして欲しい・・・ 私達はあまりにも、わからぬすぎる事が多かった。生きるという事は人任せにははいけないと痛感した」（浜通り／男性）
- 「39歳 HS 助けて下さい！！私は40歳までにもう一人、子供を産みたいと考えていました。しかし原発事故... 39歳の今、あきらめかけています。産まれてくる子供が健康に過ごせるのか？健康に産まれるか？年齢的にも限界の子宝の時期。こんな事故で楽しみにしていた目標もだいなしです。主人は爆発後すぐに外での仕事、私も同じく線量の高い地域の外での現場作業を一日中していました。今、現在も一日中、線量の高い地域での作用の日々です。仕事をやめられないし。こういう二次、三次の被害者もいることをわかって下さい。家を建てたばかりで避難したくても支援もできません！頭がおかしくなりそうです！日々、お金はかかります！」（中通り／女性）
- 「私は農家の老人ですが、現役です。18才以下の孫3人居ます。長男と嫁は他仕事に勤めて居ます。80才の私一人で農業はあらましやって参りました。川俣町ではありますが、避難地域ではありませんが、昨年春以来無収入に等しい有様になり困って居ます。賠償も昨年6月以来手続きはしておりますが、今だに入っておりません。毎日放射能との戦いです。本当につかれました。此の様な世の中にしたのは、言うまでもなく東電と自民党系の先輩達なのだが、それを今の東電社員や政治家達は真からわかって居るのでしょうか。私達はどうすれば良いのでしょうか？」（中通り／男性）
- 「避難出来ませんでした。郡山市に住んでいます。放射線が高い地域とは知 3/15 日前後も水を求めて外で並び（子供までも）スーパー・ガソリンスタンドも長蛇の列でした。事実を公表していただければ、もっと子供達も無駄な被ばくをせずすみません。今も家庭の除せんが進みません。近くには14マイクロもある場所（スポット）もあると地域の役員の方の話です。今一番の不安は再び福島で大きな直

下地震が行ったらと心休まりません。どうか全勢力をあげて安全確保に対策をとってください。涙がスーッと時々こぼれる日々です」(中通り/女性)

- 「私は 50 キロ離れておりますが 20 キロだって 50 キロだって変わらないと思います。このキョリで毎日お水も食糧(野菜)、自宅で採れたもの、じゃがいも、たまねぎ、にんにく、大根、皆食べていると言っていますし、売っています。お米も大丈夫だそう、食べています。これでは何年後が心配です。食べないで病気になるからいちいちこだわらないでいるのと私も同じです。野菜を洗いながらこのくらいの洗いで落ちるのかと不安をかかえ毎日生活しています。東京電力がもっと危険物に対し大丈夫、大丈夫がこうなってみて、福島県民を今どん底に落としたのです」(中通り/女性)
- 「今まで農家や野菜づくりが好きだった人に北海道で、農地を借り、じゃがいも、玉ねぎ、人参、かぼちゃ、とうもろこし等、植えたり、収穫したりできる(もちろん、旅費や施設費等は国が負担)制度 ○海で、泳ぐことができないので、沖縄で海水浴ができる制度(釣りも) ○私は、ずっと孫と一緒に住む夢をもっていました。もう、叶わぬ夢となってしまいました。息子も県外に避難したので、多分、そちらで、結婚となるでしょう。なので、孫に会いに行ける様、家族間は高速料金や、旅費を無料にする制度 ○電気料金無料の制度 ○各家一台ガイガーカウンターがもらえる制度。私は、南相馬市原町区に住んでいます。昨年3月15日から息子の会社(支社)の寮へ避難し、その後新潟県柏崎市へ12月いっぱいお世話になっていました。高校2年生の息子が柏崎市内の高校へ転校したのですが、クラス内で疎外感を持つようになり、南相馬へ帰りたいと申したからです。あと一年、卒業まで頑張る様、説得しようかと思いましたが、南相馬市長の桜井勝延さんが、早く帰って来るように呼びかけしてましたし、原町高校や相馬農業高校も、10月末から、再開すると聞いていたので、ちょっぴり心の隅で「もう安心なのかも...?」という気持ちもありました。しかし、今頃になって、セシウムが入った花粉が飛散するとか、スーパーマーケットの駐車場に、ストロンチウムが飛散し、その数値が100万ベクレルに達しているの風下に住んでいると食べ物に関してもそうです。南相馬で取れた野菜があたり前のように売られているのです。セシウムやストロンチウム、プルトニウム等、私にはよくわからない物が樹木や地面、水面などに付着し、そこに植えられたであろう野菜を、成長期である息子に食べさせる訳にはいきません。なるべく遠く離れた他県の物を高いお金を出して食べているのです。花粉が飛べば、マスクをすれば、少なからずも防護できるかもしれませんが、β線、α線等は、どう防護したらいいのかわかりません。そういう危険な環境の中、私達住民は生活しているのです。主人と両親は、4月の中旬頃南相馬へ帰郷しました。父が、柏崎に住むようになったら、ボケ症状が出て来たからです。帰郷してからは、前のような状態に戻りましたが、大好きだった、野菜づくり、(一年

分のじゃがいも、玉ねぎ、にんじん、ねぎ、白菜等を作っていました) や、しじみ取り、山へ行っては、山菜取り、キノコ狩り等が、あの原発事故後、一瞬にしてできなくなってしまいました。夏の暑い時も、窓も開けられず、熱射病になりかけたと申しておりました。今でも洗濯物は、室内で干しています。一部屋が洗濯物干し室になってしまいました。そんな健康被害や、精神苦痛を受けているのにもかかわらず、東電の精神的賠償は、自宅へ戻った時点でなくなるのです。おかしいと思いませんか？遠く離れて避難している方は、それは大変かもしれませんが、今、私達が受けている健康被害や、内部被曝の心配はないと思います。どうか私達の今の現状を、お察し頂き、地元で生活している者にも、賠償して頂ける様、支援をお願いいたします。是非、30km 内に住んでいる者に、避難者同様、月 10 万円の賠償をお願い致します」(浜通り／女性)

2012 年 3 月 22 日